学力向上のための重点プラン　　新宿区立落合第二小学校

【最終評価】

最終評価（区の学力定着度調査の結果を分析）	
・成果と課題	・課題への方策等
【第１学年】 国ドリルやワークシートを活用しながら、字の形や筆順に気を付けて、丁寧に平仮名や、カタカナ、漢字を練習することができた。視写の時間や振り返りの時間を活用して、文を書く力を伸ばすことができた。「言葉の宝箱」を活用し、語彙力を高めることができた。今後も、助詞や言葉を正しく活用していけるよう指導が必要である。	国「あのねノート」を活用し、スモールステップでレベルアップできるよう、課題を設定し、文章を書く力を更に高めていけるようにする。平仮名や、カタカナ、漢字を正しく習得し、活用していけるよう、個々への指導を重ねる。
算「おおきいかず」の 120 までの数、「たし算やひき算」などの反復学習を通して、繰り上がりや繰り下がりの仕方、数の構成の理解が深まってきた。一方で、文章問題を正しく理解して立式する力を高めていく必要がある。また、時刻の読み取りについて理解が不十分な児童がいる。	算繰り上がりや繰り下がりのある計算や時刻についての理解を更に深めるため、デジタルドリルを有効活用していく。文章問題を正しく理解するために、「分っていること」「求めること」について確かめ、丁寧に指導し、立式できるようにする。また、ブロックや時計などの具体物を操作しながら、理解できるように促す。
【第２学年】 国区の学力調査では、「班やグループになって、友達といろいろな考えを話し合おうとしている」という項目に対し、８４．４％が肯定的に回答し、区の数値よりも５．１ポイント上回った。一方、場面の様子や、文章中の説明を読み取って書く応用の設問については、区の正答率よりも５ポイント以上低く、課題であることが分かった。	国文章を読み取る力を向上させるため、話題の中心となるキーワードを捉え、それらを手掛かりに自分の力で読み進められるように指導する。キーワードを線で引きながら前後の文章の関係性を読むなど、丁寧に指導をしていく必要がある。
算グラフから特定の項目を読み取る、データ活用に関する設問については、区の正答率より５．１ポイント上回った。一方で、３位数－２位数の繰り下がりのある筆算については、区の正答率よりも１０．９ポイント下回り、課題が大きいことが分かった。	算「数と計算」の知識・理解について、基本的な加法・減法の定着をさらに図る必要がある。特に、繰り上がりや繰り下がりのある筆算については、筆算の仕方を再度丁寧に確認し、デジタルドリルやプリント等で繰り返し、復習に取り組んでいく。

【第３学年】 国主体的に学習に取り組む態度では、すべての項目で全国・新宿区よりも肯定的な回答割合が高く、意欲的に取り組んでいることが分かった。文章を読み取る力に課題があったが、語彙を増やすために、読書の推進や辞書の活用を積極的にしたことより、平均到達スコアは全国平均より１１．３ポイント上回った。文の主語を選ぶ設問では、全国より下回っており、文の組み立ての理解に課題があることが分かった。	国日頃から文章を書くときに、主語が抜けていることがある。短文を例に何が主語・述語・修飾語になるか考えさせることを繰り返していく。また、文を書く時に、主語が抜けていないか見直しをさせるように取り組んでいく。引き続き、漢字学習や新しい言葉が出てきたときには辞書などで確認するようにし、語彙力を高めていく。
算毎日６４マス計算でかけ算わり算の計算の反復練習を行った結果、乗法除法については、全国平均をともに４ポイント以上上回った。一方で図形・測定領域においては新宿区平均を下回っており、その中でも「時刻と時間」については新宿区平均から６ポイント下回っていた。時刻・時間それぞれの用語の意味や違いが十分に身に付いていない。	算基本的な計算については全体平均で見ると向上していると言えるが、Ａ－Ｄ層の差が広がっているため、引き続き反復練習を行っていく。また、図形領域に関しては、作図や測量の活動を通して感覚を養っていく。加えて、「時刻と時間」についても、具体的な操作や反復練習を通して、復習をし、定着を図る。
【第４学年】 国中間評価で上げていた言葉の意味に関する設問（ことわざなど）については、全国平均を１０ポイント以上上回った。一方、文中から「登場人物の心情」や「登場人の行動の理由」を読み取る設問については、Ａ－Ｄ層の差が大きく広がった。	国文章を読み取る力を全体的に向上させるため、個別指導や一斉指導だけでなく、グループ活動も設ける。読み方や解釈の仕方をグループ内で共有し、自分にはない考えを取り入れたり、自分の考えを深めたりすることで、読み取る力の向上を図っていく。
算毎日のプリント学習で検算の反復練習を行うことで、中間評価で挙げていたケアレスミスは全国平均よりも９ポイント上回った。新宿区平均からも３ポイント上回り計算領域については定着が見られる。一方で図形・測定領域に課題が見られる。新宿区平均からは唯一マイナスポイントとなる領域となった。空間認知能力や量感について課題があることが分かった。	算重さの減法や長さの比較についての誤答が多い。普段から重さや長さの比較を定期的に行うようにしながら量感を培う。またｋｇ⇔ｇやm⇔ｃｍなど単位変換についてもミスが多いため図形・測定領域においても反復練習を取り入れるとともに、実生活でも適宜課題にしながら、知識の定着を図っていく。
【第５学年】 国中間評価であげていた「書くこと」に関しては、全国平均よりも９ポイント上回った。意識調査でも「はっきりと伝わるように言葉を選んで書き直している」の項目では、９割以上の児童が	国聞くことに関しては、語彙力の少なさから内容を理解しきれなかったり、最後まで聞かずに勝手な解釈をしてしまったりする傾向が学校生活でも

できていると答えていた。一方、「話すこと、聞くこと」に関しては区の正答率よりも６ポイント近く下回り、課題が大きいことが分かった。	見られる。そのため、毎日継続的にスピーチを聞き合う機会を確保し、聞いて分かったことや感じたことを伝え合う活動等を取り入れていく必要がある。
算具体物や ICT を活用してきたことにより、図形に関する問題においては、立体、平面どちらにおいても全国平均を８ポイント以上上回った。頭の中で図形を具現化する力が高まっている。一方、データの活用領域においては、全国平均を３ポイント下回っている。	算二次元表（２つの観点からまとめたもの）に関する問題で誤答が多かった。二次元表について、表の見方をもう一度確認する。そして目的を明確にし、児童自身が目的に沿って資料を集めたり、分類・整理したりする時間を設定する。
【第６学年】	
国年間を通して、定期的に短作文の学習を継続してきたことで、中間評価で挙げていた「書くこと」の領域については、区の正答率と同じ、全国の正答率よりも８ポイント上回る結果になった。全体的には「書くこと」に関する力が少しずつ高まっているが、A 層と D 層の差が 61.5 パーセントになっており、差が大きいことが課題である。	国今後も定期的に短作文を書く学習を継続していく。特に、D 層については「文章を視写する・短く簡潔に書く・より具体的に書く・結論から書く・主語と述語を正しくつなぐ」などの視点で丁寧に指導し、文章を書くことへの抵抗感をなくしていき、自信がもてるようにしていく。
算中間評価の課題としてあげた「考える」こと、応用について、全国より１７．４ポイント上回った。習熟度別授業の中で、実態に応じて説明を重視した学習やタブレット端末を活用した交流活動などに、継続的に取り組んだ成果が出ている。基礎についても１０ポイント以上上回った。平均は上回っているが、「対称な図形」や「円や球」にやや課題がある。	算今後も授業の中で、基礎を重視しつつ、方法を説明したり考えを共有したりする活動に継続的に取り組んでいく。図形領域については、タブレット端末を活用しイメージを確実につかんだり、個別支援を充実させ作図技能を高めたりしていく。
【特別支援】	
・朝の会で「話す」「聞く」の基本的な活動を取り入れ、毎日繰り返すことにより、生活に生かすことのできるコミュニケーション能力を育成できた。また毎日、学習予定を日課帳に書くことを習慣化することにより、児童が予定を把握し、主体的に学ぶ姿勢が身に付いた。	・個々の児童がタブレット端末を効果的に活用し、個々の実態に応じたデジタルドリルや学習アプリを日常的主体的に活用できるようにすると共に、地域人材を活用したり交流での体験的な活動に積極的に参加したりできるようにする。
・個々の児童の特性に合わせて柔軟にグループ編成を行ってきたが、児童数増加が続き、少人数グループでの学習が難しい場面も生じたため、学習に集中できない児童が一定数見られた。	・少人数での学習を実施できるよう、パーテーションで区切ったり、教室環境を整えたりしていく。それぞれの児童に応じて落ち着いて取り組める人数を柔軟に配置する。